

誰もが抱える悩みをパパツと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

子どもからの「相談」

子どもの気持ちに共感する

相談への一般的な対処方法としては、「共感することが大切だ」とよくいわれます。お子様からの相談を受ける場合は、「子どもの気持ちになって一緒に考える」という意味になるでしょう。大人と子どもでは、物事の受け止め方に違いがあります。大人にとっては大したことではなくても、子どもにとってはとても驚いたりショックだったりする場合があります。そんなときには、大人としての考え方や感じ方で話をするのではなく、「子どもがどう感じているのか」をしっかり受け止めて、そこから話を進めていくことが必要になるはずです。

一方で、「共感する」というのはなかなか難しいことだ、とも思います。ある程度成長して進んでいくことが必要になるはずですが、

保護者の皆様からの「相談」

私も、保護者の皆様からいろいろなご相談をいただくことがあります。学習方法や志望校の選び方など、塾での学習や中学受験に関することが多いのですが、ときにはもう少し踏み込んだご相談をいただくこともあります。学校での出来事について、先生やお友達との関係、さらにはご家庭の環境についてのご相談などです。以前、あるお母様から「学校の先生から子どもの行動について思いがけないことを言われた」というご相談を受けました。お母様はとても動揺されている様子でした。私は専門家はありませんで、具体的なアドバイスはしませんでした。ただ、お子様の塾での様子を詳しくお伝えすることで、お母様は少し安心なさったようでした。きっと私に対して、「何かをしてほしい」というご相談ではなかったのだと思います。

対処や解決が必要なのか

何かご相談をいただいたとき、以前の私は「講師としてどう解決すればよいのか」をいつも

学校や塾のこと、お友達や勉強のこと……。お子様は、保護者の方に毎日たくさんのお話をするのでしよう。それらが「楽しい」という話ばかりならよいのですが、ときには「ちょっと困っている」「しらん」というマイナス面の要素を含んでいることもあるはずです。そんなとき、大人はどのように接してあげればよいのでしょうか。今回は、お子様からの「相談」について考えます。

くれば、子どもにもそれぞれの自我が生まれてきます。未熟とはいえ、お子様なりの考え方が生まれてくるわけですから、その全てに共感する、というわけにはいかないこともあるでしょう。また、お子様がお話しされることの全てが「正しい」とも限りません。ときには自己保身的な気持ちから無意識に、もしくは意識的に、自分にとって都合のよくないことは話さない……ということもありません。そういった十分な情報から、お子様の本当の気持ちを理解するのは、決して簡単なことではありません。

「君の気持ちはわかるよ」

お子様から相談を受けたときに大切なのは、「その気持ちはわかるよ」としっかりと伝えながら話を聞くことだと思えます。例えば「算数が考えていました。どのようなご相談も「対処」や「解決」を求めているもの、と思っていたからです。しかしこのとき、「この先生には知っておいてもらいたい」、そんな思いから相談してくださることもあるのだ、と気付きました。そして、そういうお話をさせていただくことによって、お互いの信頼関係がより深まることも知りました。

ご家庭でも、お子様からの相談に「どう解決すればよいか」と考えてしまうのではないのでしょうか。しかし、お子様からすれば「お父さん、お母さんにわかってもらいたい」という思いだけでお話しすることもあるのではないかと思います。たしかに、お子様が困っていたりつらいと感じていたりすることがあれば、救いの手を差し伸べたくするのが親の心理でしょう。ただ、お子様が本当に対処や解決をしてもらいたいと思っているのか、それともわかってもらいたいだけなのか、それを見極めることも必要だと思うのです。

未来を考える

その場での「対処」や「解決」が必要のない（もしくはできない）ご相談の場合、私は「少し遠くの未来」を一緒に考えさせていただくようにしています。直近のことではなく、もっと先のことを考えるようなイメージです。ただ「聞いてもらいたい」だけの話を塾の先生にするのは、少しためられるかもしれません。「話をして

難しくなってきた大変だ」という相談を受けたときには、「うん、わかるよ。大変だよ」と声を掛けながら話を聞いてあげてください。また、そのあとにどう話を進めるかも大切なポイントです。「君の気持ちはわかるよ」という先に話された内容が、お子様にとって理解でき、納得できるものであればよいのですが、そうでなかった場合、「なんだ、結局わかってくれななんだ……」という気持ちになってしまう危険性もあるのです。

塾の講師は、お子様の全てを知っているわけではありません。ご家庭の状況や環境、学校での過ごし方や先生との関係、友人関係や塾以外の習い事など、わかっていないことが多いともいえます。そう考えると、安易に「気持ちわかる」という言葉を使うことができないのです。ですから私は、「気持ちに共感する」とい

も、別に何かしてもらえるわけではないだろうし……」というように考えてしまわれることもあるでしょう。ただ、話をすることで、前述したような「信頼関係」は深まると思っております。



福田 貴一の
四つ葉café

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長
福田 貴一

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元バーコードを読み込んでご確認ください

スマートフォンのみ対応